事業完了報告書 （実行団体）

事業名:	このゆびとまれっず！
資金分配団体名:	一般社団法人RCF
実行団体名:	浦和レッドダイヤモンズ株式会社
実施時期:	2021年8月～2022年2月
事業対象地域:	埼玉県
事業対象者:	子ども食堂を利用する子どもたちとその家族

Version 3.2

日付： 2022年3月24日

Ⅰ．事業概要

事業実施概要	厚生労働省の調査によると、日本の子どもの貧困率（2015年）は13.9％もあり、さらにひとり親家庭の貧困率は50.8％と先進国の中でも最悪な水準と言われている。 加えて、長期化するコロナ禍での変化として「困窮家庭の増加」や「子どもたちの変化（例：言葉の発達が兄弟に比べて明らかに遅く心配、小中学生が挨拶をしなくなった、子供達同士のコミュニケーションがとれない、子どもたちが『コロナが原因で』というとわがままも言わずすぐに聞き入れる、など子どもたちなりのストレス）」が顕在化している。 それらの課題に対して、地域に根差すスポーツクラブとして、クラブのもつ人材やノウハウ、情報発信力などを活用し、 ①ハートフルケア（生活困窮・貧困家庭へのスポーツを通じた心身・精神的なケアプログラムの実施） ②レッズサンタ（子ども食堂への選手・スタッフ・マスコット等によるプレゼント（支援物資）デリバリーと子どもたちとの交流） ③特設サイト開設によるプロジェクトの周知と支援の輪の拡充 に取り組んだ。

Ⅱ．課題・事業設計の振返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	コロナの影響で当初計画していた内容から一部変更を余儀なくされたが、プログラムは、ほぼ予定通りに遂行できた。また、事業を進めていく中で当初計画していなかったもの（事業ロゴマークの作成、埼玉県の後援、選手メッセージカード製作等）も、日々の活動や関係者とのコミュニケーションから新たに生み出された成果であり、事業の充実に寄与した。一方で、情報発信（対外的な事業認知・話題性・反響など）や新たな関係先との関係構築数については目標値に達していないが、情報発信の「密度」や関係構築先との「濃度」など、今後に向けて必要な団体との関係性は構築できた。 この活動は「打ち上げ花火」ではなく「小さく生んで大きく育てる」形が理想であり、今後も継続していくための骨子作りはできたと実感している。

Ⅲ．今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	居場所の不足	生活困窮家庭とその子どもたちの笑顔創出と、心身のストレス緩和	子ども食堂からのポジティブな反応のフィードバック	子どもたちや子ども食堂がクラブの取り組みを評価し、継続的なサポートを期待している状態	参加者から多く感謝の声が寄せられ、特設サイトに掲載	スポーツのもつチカラで、多くの子どもたちと家族に元気や勇気、笑顔を届けることができた。
生活困窮者	食料関連の不足	生活困窮家庭へプレゼントを届けることにより子どもたちの笑顔を創出	子ども食堂からのポジティブな反応のフィードバック	子どもたちや子ども食堂がクラブの取り組みを評価し、継続的なサポートを期待している状態	参加者から多く感謝の声が寄せられ、特設サイトに掲載	各子ども食堂の施設運営者や、子ども食堂に通う家族や子どもたちに“直接”手渡す機会・場面が作れ、笑顔や感謝の言葉をいただくことができた。
中間支援者	連携の不足	本活動の認知と支援拡充	特設サイトで取り組みに関する情報発信ができているかどうか	取り組みの成果および多様な協力者の声・情報がサイトにアップされている	成果や報告だけでなく、クラブとして本活動に取り組む意義や目的、子ども食堂や子供貧困に関する情報なども掲載・発信した	・キャッチーな「事業名称」と「ロゴマーク」は、本活動のクラブ内外へ認知・浸透を図る上で、とても効果的だった。 ・「総括とこれから」というページに、今回の協働者や協力者の声をまとめて掲載させていただいた。
中間支援者	連携の不足	子ども食堂ほか関係者とのネットワーク作り	双方がパートナーとして理解しあえているかどうか	相互に理解していて、必要に応じて連絡・相談・協力体制が取れる状態	・子ども食堂ネットワークとは協働者として関係深化 ・埼玉県から事業後援を取り付け ・スポンサー企業16社とも協働	・本活動を通じて、クラブ側の「子ども食堂への理解」や、子ども食堂側の「クラブの存在意義や社会貢献・支援活動への認知」などをお互いに深めることができた。 ・本活動に限らず、クラブと子ども食堂が協働で取り組む活動も検討している。

Ⅳ．アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	埼玉県およびさいたま市内において、 ・子どもたちに元気と勇気と笑顔を届け続ける。子どもたちがサッカーを好きになり、クラブを好きになり、スポーツを通じて心身とも健康に成長している ・スポーツクラブが社会課題解決のための取り組みを実施していることを地域に方々に認知され、支援の輪が広がっている ・子ども食堂や支援団体との関係が深まり、課題に対する協働の取り組みを継続・発展させ、生活困窮家庭の減少と共助社会づくりが進んでいる
考察等	・活動を通じて目標へ着実に進めている。一朝一夕で実現できるものではなく、継続して実施していくことの重要性を再認識している。 ・クラブのステークホルダーへの認知は進んでいるが、地域の一般の方々への認知がまだまだ低い。そこをクリアするための行政・関係団体へのアプローチやネットワーク作りが必要と感じている。 ・子ども食堂との関係性も深められている。その関係性から現状の「課題」をより的確に抽出し、そこに対してケアしていくことが重要。 ・来年度から自走していくための枠組みは構築しつつも「活動資金」については捻出方法を考えていかねばならない。

Ⅴ．活動

活動	進捗	概要
ハートフルケア	ほぼ計画通り	2021年11月20日（土）埼玉スタジアムで実施。子ども65名（親子で148名）が参加し、メッセージトーク、2種目のサッカー体験、試合観戦などを通じ、笑顔の創出と心身のストレス緩和、親子での思い出づくりなどを支援。
レッズサンタ	計画通り	2021年12月10日（金）子ども食堂へプレゼントを届ける。翌11日（土）と14日（火）には、子ども食堂で行われた配布イベントにクラブスタッフとマスコットが参加し、子どもたちと交流を図る。プレゼントは27箇所の子ども食堂と800人の子どもたちへ届けられた。
特設サイト開設と情報発信	ほぼ計画通り	2021年9月に「特設サイト」を開設。活動報告だけでなく、子どもの置かれている現状や、子ども食堂の活動なども発信して、周知・認知を図った。
新たな関係先との関係構築数	ほぼ計画通り	子ども食堂ネットワークとは協働者として関係深化。埼玉県からは事業後援を取り付け。「レッズサンタ」ではクラブスポンサー企業16社からの協力・支援を得ることができた。

Ⅵ．想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	・本来はさいたま市と密に連携して困窮家庭への情報提供を行いたかったが、思った以上にコミュニケーションに課題があった。代わりに埼玉県（少子政策課）に相談したところ、快く協力していただけた。さらに今後もクラブの取り組みへの理解・協力を表明していただけている。 ・「ハートフルケア」で子どもたちに体験してもらった「アンプティサッカー」は、想定以上の反響があった。 ・「レッズサンタ」への物品寄贈は想像以上で、支援は物品に留まらず、梱包資材や運搬、運営サポートなど、さまざまな形の支援を得ることができた。 ・地域の団体や民間の福祉支援団体などからもイベント協力の申し出があった。今回は協働を実現できなかったが、今後に向けて協力関係を築いていきたい。

Ⅶ．事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	・「困窮家庭の増加」については、レッズサンタを通じて物的支援はできたものの、すぐに改善・解決できるものではなく、引き続き支援していくことが必要。クラブのこうした取り組みが、単にモノを届けるだけでなく、感謝されたり活力になったりと“ココロ”にも届いていることを実感している。 ・「子どもたちの変化」については、ハートフルケアにより、多くの子どもたちの輝いた笑顔を見ることができた。参加した親子から子ども食堂運営者のもとへたくさんの感謝の声が寄せられている。 ・クラブの取り組みの周知・認知は確実に進んでいるので、今後も多くの賛同者・支援者を募りながら、活動の継続と拡大を目指して取り組んでいきたい。

Ⅷ. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
子ども食堂ネットワーク	「ハートフルケア」「レッズサンタ」における子ども食堂側の全面的な調整、当日対応、サポートスタッフの派遣など。
FC ONETOP（アンプティサッカーチーム）	「ハートフルケア」における障がい者サッカー（アンプティサッカー）の指導。
埼玉県（少子政策課）	事業全体に関わる後援、視察による事業への理解浸透。
パートナー企業（16社）	「ハートフルケア」「レッズサンタ」における協働、支援、サポートなど。協働に繋がらなくともクラブが本事業に取り組んでいることの理解浸透。
浦和レッズ後援会	「レッズサンタ」における現場運営協力。今後の協働へ向けた事業への理解促進。

Ⅸ．インプット　※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	9,001,025	4,331,800	48.1%
	管理的経費	315,000	315,000	100.0%
合計		9,316,025	4,646,800	49.9%

補足説明	3月末で執行率100%となる見込み

Ⅹ. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	・テレビ埼玉浦和レッズ応援番組「GGR」にて紹介（2021/11/26） ・朝日新聞折込「RedsTomorrow第330号」掲載（2021/12/11） ・さいたま市区報2021年12月号掲載（中央区版、緑区版、浦和区版） ・J:COMスポーツ番組にてPR（2022年/2月） ・Jリーグ「シャレン！アウォーズ」エントリー（2022/2月）
2.広報制作物等　当該事業費を使って製作したもの	・特設サイト開設 URL： https://www.urawa-reds.co.jp/club/konoyubi/ ・事業ロゴマーク作成 ・活動バナー、フラッグ、ステッカー
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	・活動バナー ・フラッグ ・こどもプレゼント用手提げ袋 ・X'masメッセージカード
4.報告書等	※「特設サイト」内の下記URL参照 https://www.urawa-reds.co.jp/club/konoyubi/2021summary.php

Ⅺ. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 **※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)**	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	情報公開に関する規定については、一部未整備
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。	特に変化なし	
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	経営に関する機密情報は未公開

4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	**状況**	**内容**
1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	株主総会が開かれている
2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	不定期ではあるが、Jリーグやグループ会社でのコンプライアンス研修を行っている
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	経営に関する機密情報は一部非公開
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 （実施予定の場合含む）（複数選択可）	☑ 外部監査 ☐ 内部監査 ☐ 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	